

仏教音楽 人物伝

- 10 -

福本 康之

藤井 制心 (1902~ 1972)

Fujii Seishin

伝統的仏教音楽の五線譜化
仏教音楽史などを編纂

戦前の京都で学生の仏教音楽活動牽引

80年余り前、音楽界の耳目を集めた仏教音楽の団体がありました。京都仏教聖歌合唱団といい、昭和6年に仏教音楽協会（昭和初期に仏教聖歌の新作発表と普及を中心活動とした全国的組織）の京都支部が主導して結成されました。東京拠点の同協会合唱団（昭和11年結成）に先駆けて、その一翼を担いました。

バーは、龍谷大学や京都女子専門学校（現京都女子大学）、西山専門学校（現京都西山短期大学）など仏教系の学校の学生でした。昭和8年には学生の自主運営となり、同時に音楽的充実が計られたことを、当時の資料が伝えています。



平曲の採譜を行う藤井制心

学音楽科ほか）から帰国して間もない藤井制心でした。藤井の着任理由は、留学の実績と考えられますが、同合唱団の活性化という点からみると、藤井が学生に慕われ、リーダーシップを兼ね備えた存在であったことも見逃せません。放課後、藤井の家が学生たちであふれたというエピソードも伝えられています。しかし、何よりも藤井が適

任であったのは、チャレンジ精神をもって、仏教音楽に取

り組んだことです。日本における音楽の西洋化を見据えた声明譜の五線譜化（『梵唄採譜 初夜礼讃偈』の出版）、伝統的な仏教音楽文化の継承という視点から行った平曲（琵琶法師が演奏する『平家物語』）の保存と顕彰、仏教音楽史の編纂（『仏教音楽史概説』の出版）など、その活躍は多岐にわたっています。時間もともにした学生にとっても、藤井は、刺激的な存在だったに違いありません。残念ながら、同合唱団は戦時体制下で解散となり、藤井は任職継職（名古屋市中区・長圓寺）もあって京都を後にします。

しかし、合唱団のメンバーが戦後いち早く活動を再開し、特に龍谷大学と京都女専の合唱団が龍谷混声合唱団として仏教讃歌活動を牽引したことを思えば、藤井制心という存在の大きさに、改めて気がかされることでしょう。

（本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長）